

舌 區 新			層 下 域 流							
(51)	(50)	(49)		(36)	(35)	(33)	(30)	(24)	(23)	露頭番號
十 尺 二 寸	四 尺 三 寸	七 尺 五 寸	平 均 十 二 尺	十 五 尺 八 寸	十 五 尺 四 寸	十 四 尺	十 六 尺 九 寸	十 二 尺 二 寸	十 七 尺 二 寸	層 厚
五 尺 三 寸	二 尺	五 尺 一 寸	平 均 八 尺 五 寸	七 尺 二 寸	八 尺 三 寸	五 尺 八 寸	十 一 尺 九 寸	十 一 尺	十 三 尺 七 寸	炭 厚
二 尺 七 寸	一 尺 五 寸		平 均 七 尺 七 寸	六 尺 二 寸	七 尺	四 尺 一 寸	十 尺	十 一 尺	十 三 尺	採 炭 厚

新區舌辛川流域下層					新區舌辛川中層	辛川流域上層				
	(63)	(62)	(61)	(59)	(58)		(55)	(54)	(56)	(53)
平均七尺	七尺八寸	七尺一寸	八尺八寸	五尺二寸	二尺七寸	平均八尺	十四尺三寸	九尺	五尺四寸	四尺八寸
平均一尺	三尺	二尺六寸	一尺	八寸	二尺五寸	平均三尺	二尺一寸	炭部ナシ	四尺一寸	三尺三寸
		二尺一寸	一尺		二尺	平均一尺八寸	二尺一寸		四尺一寸	二尺

層上域流「ッペユシテ」					露頭番號
	(76)	(75)	(73)	(69)	層
平均	四尺	四尺	二尺	三尺	厚
四尺	二寸	三寸	八寸	二寸	炭
平均	一尺	七寸	六寸	二尺	厚
一尺	一寸	一寸	一寸	二尺	採炭厚

主要炭層ノ石炭ヲ本所分析係ニ於テ分析セシ結果ハ左ノ如シ

吾辛川流域産石炭分析表

炭層及露頭ノ番號	成 分 (百分中)						發熱量 (カロリー)	比重	燃料比	
	水	揮發物	固定炭素	骸炭ノ質	灰	灰色				硫黄
(26)	七・〇九	四〇・五二	四九・四九	粘結セス	二・九〇	淡褐	〇・四〇	六・六〇〇	一・三〇〇	一・二二三

III 層 下				II 層 中		I 層 上				
(30)	(23)	(20)	(3)	(25)	(12)	(34)	(31)	(29)	(28)	(27)
六・一〇	五・八一	三・九三	八・八八	四・八八	三・三〇	七・三四	七・三三	三・九〇	八・五〇	七・七〇
四八・六八	四五・八三	四七・七〇	四四・二六	四二・二八	四三・八〇	四〇・二〇	四二・二四	四四・一〇	四〇・二二	三九・一〇
三八・六七	三九・三五	三六・一二	三九・四四	三九・五〇	四四・七四	四二・四六	四二・八八	四一・二〇	四八・六八	五〇・一一
同	粘結セス	粘粘結ス	同	粘結セス	粘粘結ス	同	同	同	同	同
六・五五	九・〇一	一二・二五	七・四二	一三・三四	八・一六	一〇・〇〇	七・五五	一〇・八〇	二・六〇	三・〇九
同	同	同	淡褐	淡黝	褐	淡褐	淡黝	同	同	同
〇・二五	〇・五三	〇・二四	〇・三七	三・七六	〇・二一	〇・四八	一・七五	〇・二四	〇・四五	〇・四〇
六、三二五	六、二七〇	六、五四五	五、六一〇	五、八八五	六、六〇〇	五、八八五	六、一六〇	六、一六〇	六、三八〇	六、六〇〇
一・三一一	一・三三七	一・二九三	一・三六八	一・三九六	一・二八九	一・三五一	一・三三一	一・三二八	一・二九七	一・三〇五
〇・七九	〇・八六	〇・七六	〇・八九	〇・九三	一・〇二	一・〇六	一・〇二	〇・九三	一・二一	一・二八

新區舌 辛川流域産石炭分析表

炭層及露頭ノ番號		成 分				(百 分 中)		發熱量		比 重		燃 料 比	
		水	揮發物	固定炭素	骸炭ノ質	灰	灰色	硫 黃	(カロリー)				
(36)		六・三五	四〇・五〇	四四・六二	粘結セス	八・五三	淡黝	〇・四三	六・一六〇	一・三三一	一・二〇		
(35)		四・〇八	四四・三五	三九・八八	稍粘結ス	一一・六九	同	〇・五四	六・二七〇	一・三四六	〇・九〇		

炭層及露頭ノ番號			成 分 (百 分 中)						發熱量 (カロリー)		比 重		燃料比
			水	揮發物	固定炭素	骸炭ノ質	灰	灰色	硫	黃			
I 層 上													
(57)	五・二五	三二・二六	三二・九四	同	二九・五五	同	〇・二八	四・五六五	一・五三〇	一・〇二			
(53)	五・三一	四三・〇〇	四七・一九	稍粘結ス	四・五〇	同	〇・四〇	六・九三〇	一・三〇三	一・一〇			
(49)	八・七〇	三三・四〇	三九・四六	粘結セス	八・四四	淡褐	〇・四一	五・〇〇五	一・六二四	一・一八			

以上舉クルトコロニヨリ之ヲ觀ルニ南部區域中最モ屬望スヘキハ舌辛川流域ニシテ上層ハ平均三尺二寸、中層ハ平均三尺五寸、下層ハ平均

七尺七寸ヲ探炭シ得ヘク、之ニ次クハ新區舌辛川流域ニシテ上層ハ平均一尺八寸、中層ハ平均二尺ヲ探炭シ得ヘシ、テシュベツ流域ニハ探掘ニ堪フヘキ炭層ナシ

炭量計算ニハ殿來^{トキタ}(高距約百米)ヲ通スル水平面ヲ以テ排水準面ト假定シ同水準面以上ト以下千尺迄トニ區別シテ炭量ヲ算出セリ、但シ石炭六尺立方ノ重量ヲ八噸トス、炭量概算左ノ如シ

南部區域		炭層		排水準以上		排水準以下千尺迄	
平均厚サ		賦存面積	炭量	賦存面積	炭量		
上層 I	三尺二寸	八・六四〇 ^{平方基米}	一一、一五一、三四五 ^噸	五・四四五 ^{平方基米}	七、〇二七、六七〇 ^噸		
中層 II	三尺五寸	七・二〇九	一〇、一七六、六九二	一一・〇〇七	一五、五三八、一九六		
下層 III	七尺七寸	六・九七五	二一、六六二、〇〇六	一一・二二三	三四、八五四、八六七		
上層 I	一尺八寸	六・二八二	四、五六〇、七二八	—	—		
中層 II	二尺	一・五六六	一、二六三、二三八	三・七〇八	二、九九一、一一七		

舌辛川域		新區舌辛川域	
上層 I	三尺二寸	上層 I	一尺八寸
中層 II	三尺五寸	中層 II	二尺
下層 III	七尺七寸		

新區舌辛川流域

舌辛川流域

合

計

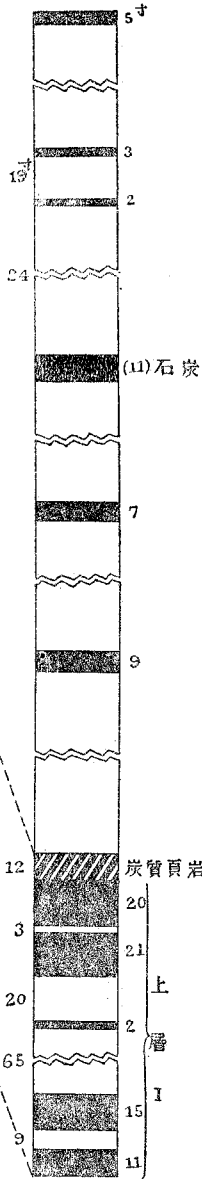
四八、八一四、〇〇九

六〇、四二一、八五〇

二 北部區域

北部區域ニ於テ炭層ハ上部含炭層ノ砂岩、頁岩層(上部植物化石層)中ニ
第五圖 北部區域 上部含炭層炭層柱狀斷面圖 縮尺百分之一

甲 川辛舌區新東



乙 川辛舌區新西

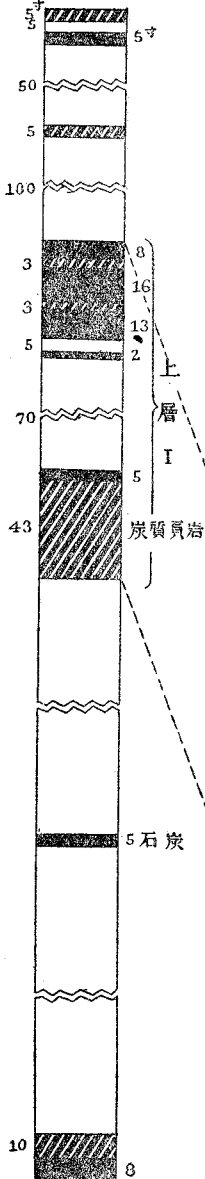
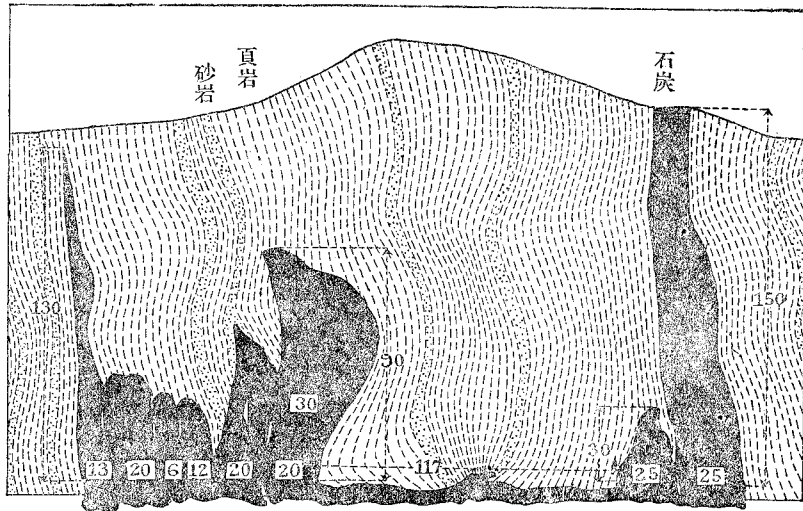


圖 六 第

(44)頭露層炭ルケ於ニ川辛舌區新東

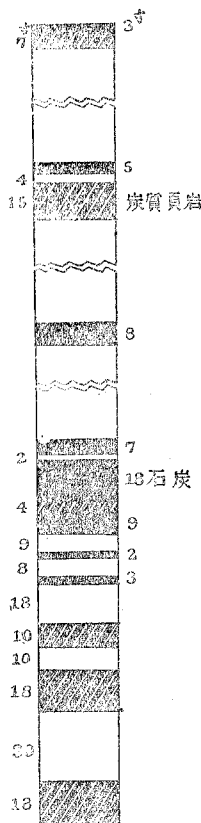


スナト位單ヲ寸ハ字數

介在シ其頒布ハ西新區舌辛川
 東新區舌辛川及「テシュベツ」上流ニ
 互レリ
 上部植物化石層中ニ介在スル
 炭層ハ第五圖ニ示セルカ如キ
 累疊ヲナシ其數多キモ主要炭
 層ハ上層ニシテ西新區舌辛川
 ニテハ(38)ヨリ(43)ニ至ル迄、東新
 區舌辛川ニテハ背斜軸ノ兩翼
 ニ沿ヒ(44)ヨリ(48)ニ至ル迄之ヲ
 追跡スルヲ得ヘシ、而シテ露頭
 (44)ノ附近ニ於テハ地層直立セ
 リ、第六圖ハ炭層ノ頭露(44)ヲ示
 セルモノニシテ地層及炭層ハ

殆ント直立セル箇處多キモ本圖ノ中央下部ニ見ルカ如キ奇形ナル地層ノ皺曲並ニ略水平ニ連續セルカ如キ炭層ノ狀態ハ未タ之ヲ了解スル能ハス、上層ハ平均層厚七尺、炭厚四尺ヲ有シ平均三尺四寸ヲ採炭シ得ヘシ

第七圖
北 部 區 域
「ツペユシテ」上流上部
含炭層炭層柱狀断面圖
縮尺百之一



上層ノ各露頭ニ就キテ其層厚、炭厚及採炭厚ヲ表示セハ左ノ如シ

露頭 番號	層	厚	炭	厚	採	炭	厚
(38)	四	尺	六	寸	三	尺	七
(39)	五	尺	三	尺	九	寸	三
					三	尺	七
					寸		

上層ノ石炭ヲ本所分析係ニ於テ分析セシ結果ハ左ノ如シ

	(48)	(47)	(46)	(45)	(44)	(43)	(42)	(41)
平均	四尺五寸	五尺五寸	五尺六寸	五尺五寸	五尺五寸	十尺一寸	七尺八寸	十八尺九寸
平均	三尺	三尺一寸	四尺一寸	四尺一寸	五尺	四尺一寸	四尺一寸	四尺九寸
平均	二尺五寸	一尺六寸	四尺一寸	三尺四寸	五尺	二尺	四尺一寸	三尺五寸

上 層 I				炭層及露頭ノ番號		成 分		(百 分 中)		發 熱 量 (カ ロ リー)		比 重		燃 料 比	
(46)	(43)	(42)	(41)	水	揮發物	固定炭素	骸炭ノ質	灰	灰色	硫	黃	比	重	燃	料 比
七・六七	五・七六	八・四八	七・一五	四二・三〇	四二・一四	四四・九五	粘結セス	八・八七	淡黝	〇・五三	六・一六〇	一・三一〇	〇・八六	一・〇七	
四二・三〇	四二・一四	四四・九五	三八・八二	四五・二五	四三・七〇	同	同	三・五八	淡褐	〇・二四	六・二七〇	一・三〇四	一・〇五	一・〇四	
同	同	同	同	四・七八	同	〇・四五	六・四九〇	一・三〇四	一・〇四						

炭量計算ニハ殿來(高距約百米)ヲ通スル平面ヲ以テ排水準面ト假定シ
同水準以上ト以下千尺迄トニ區別シテ炭量ヲ算出セリ、但シ石炭六尺
立方ノ重量ヲ八噸トス、炭量概算左ノ如シ

炭層	平均厚サ	排水準以上	排水準以下千尺迄
上層 I	三尺四寸	平方基米 六・一六五	八、四五四、二六一噸
		炭量	排水準以下千尺迄
		平方基米 八・三七〇	一一、四七八、〇四八噸

第七章 結論

釧路國ハ十勝國ノ一部ト共ニ北海道東部ニ於ケル唯一ノ產炭地ニシテ東部ニ釧路炭田、西部ニ浦幌炭田、中部ニ白糖、庶路炭田及舌辛炭田、北部ニ阿寒炭田アリ、是等諸炭田ニ於ケル炭層ハ之ヲ夕張及空知炭田ノ稼行炭層ニ比スレハ菲薄ニシテ炭質亦良好ナラサルモ其位置海岸ニ近ク運搬至便ニ、且炭層ノ傾斜極メテ緩ニシテ採炭容易ナル釧路炭田、白糖、庶路炭田及舌辛炭田ハ既ニ開發セラレタリ、即チ釧路炭田ニ於テ二十年來繼續シテ採炭厚二尺五寸乃至四尺ノ炭層ヲ稼行シ時ニ一尺餘ノ炭層ヲモ採炭モシコトアリ、歐洲戰亂ノ勃發後炭價暴騰ノ結果此菲薄ノ炭層ヲモ稼行シ得ルニ至レリ、又白糖、庶路炭田及舌辛炭田ニ於テハ從來採炭厚二尺内外ノ炭層ヲ稼行セリ、浦幌炭田ハ釧路港ヲ距ル遠キヲ以テ數炭層ヲ埋藏セルニモ拘ハラズ未タ開發セラル、ニ至ラス

阿寒炭田ハ海岸ヲ距ル遠ク從來交通不便ノ地ナリシヲ以テ世人ハ奔

舌辛ノ北方「オシヨンナイ」ニ炭層ノ存在スルヲ知レルモ眞ニ其賦存ノ状態ヲ探究スルコトナク隨テ未タ企業ノ機運ニ際會セサリシナリ、本炭田ハ既述ノ如ク數多ノ炭層ヲ埋藏スルモ平均厚サ二尺以上七尺七寸ヲ探炭シ得ルハ上層(I)、中層(II)及下層(III)ノ三炭層ナリ、其石炭ハ黑色ニシテ樹脂光澤ヲ有シ斷口多クハ參差狀若クハ貝殼狀ヲ呈ス、本所分析係ニ於テ施行シタル分析ノ結果ヲ見ルニ石炭ハ不粘結性ニシテ稀ニ稍粘結スルモノアリ、揮發物ハ百分中四十内外ニシテ概シテ燃料比一内外、風乾試料ニ於ケル水分百分中六或ハ七ナルモノ多ク黑褐炭ニ近キ低度瀝青炭ニ屬ス、其用途ハ蒸氣機關ノ燃料タルニ適ス

本炭田中屬望スヘキハ南部區域ノ舌辛川流域ニシテ平均上層ハ三尺二寸、中層ハ三尺五寸、下層ハ七尺七寸ヲ探炭シ得ヘク新區舌辛川流域ニ於テハ平均上層ハ一尺八寸、中層ハ二尺ヲ探炭シ得ヘシ、而シテ南部區域ノ炭量ハ排水準以上約四千八百八十一萬噸、同水準以下千尺迄約六千四十一萬噸ナリ、假リニ其四割ヲ探炭上ノ損耗トナスモ尙六千五

百五十三萬噸ヲ探掘シ得ヘキナリ
北部區域ニ現出セル主要炭層ハ上層ノミニシテ平均三尺四寸ヲ採炭
シ得ヘク其炭量ハ排水準以上約八百四十五萬噸、同水準以下千尺迄約
一千百四十八萬噸ニシテ採炭上ノ損耗ヲ除去スルモ尙一千百九十六
萬噸ノ實收アリ、加之北部區域ニ現出セル含炭層ハ南部區域ノ上部含
炭層ニ屬スル砂岩、頁岩層(上部植物化石層)ニ該當スルヲ以テ其下位ニ
中部含炭層及下部含炭層ノ伏在スヘキヲ推スヘキナリ、而シテ南部區
域ノ含炭層中屬望スヘキハ中部含炭層即チ砂岩、頁岩層(中部植物化石
層)ニシテ中層及下層ノ主要炭層ヲ介有セリ、隨テ北部區域ノ地下深處
ニ於テ中部含炭層中ニ介在セル中層及下層ノ二炭層ノ賦存スヘキヲ
想フモノナリ、而シテ北部區域ニ於ケル是等兩炭層ノ南部區域ニ於ケ
ルカ如ク稼行ニ堪フヘキモノナルヤ否ヤ之ヲ判定スルノ資料ナシ、宜
シク試錐ニヨリ地下是等ノ主要ナル二炭層賦存ノ狀態并ニ深サ、厚サ、
炭質ヲ檢スルヲ要ス

本炭田ノ主要炭層ハ釧路炭田ノ炭層ニ比シ概シテ炭質相匹敵シ而カ
モ層厚遙ニ大ナル下層(III)アリテ舌辛川流域ニテハ七尺餘ヲ採炭シ得
ルノ望アリ、加之本炭田ハ排水準以上ノ炭量多ク隨テ採炭上ノ利便尠
ナカラサルモ炭層ノ厚サ及炭質ノ變化著シク傾斜稍急ナルノ憾ミア
リ
本炭田ノ奔舌辛ハ舌辛原野ノ終點殿來ヲ距ル一里十四町ニシテ舌辛
市街地ヲ距ル四里十七町ニ位シ河岸ニハ廣キ平地ノ存スルアルヲ以
テ車道開鑿ノ如キ至難ノ業ニアラサルヘク、又近時頓ニ發展シツ、ア
ル釧路國ニ於ケル鑛業ノ趨勢ニ鑑ミ本炭田ノ開發ハ蓋シ遠キニアラ
サルヘシ